

令和5年度 埼玉県 英語教育改善プラン

目標

学習指導要領の円滑な実施に向けて、教員の英語指導力を養成
 学校段階に応じた目標達成に向け、*発信力強化のための指導力向上を図る
 (*発信力：英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うために、話したり、書いたりする力)

1. 現状

改善が進んだ点

- ①学習指導要領の理解が進んでいる。
- ②コミュニケーションの目的・場面・状況に応じた言語活動が行われるようになっていく。
- ③Can-Doリスト形式の学習到達目標の公表が進んだ。
 (R4 43.1%)
 (参考 R3 13.6%)

未だ改善が必要な点

- ①Can-Doリスト形式の学習到達目標の設定が進まない。
 (R4 72.8%)
 (参考 R3 80.5%)
- ②小中連携による、指導法の継続が進んでいない。
 R4 67.6%
 (R3 77.5%)

2. 分析

- ①②小中学校等英語指導力養成講座において、学習指導要領で求められる指導について有識者から直接説明を受け、参加者同士で協議を行うことで理解が進んだ
- ①②教育課程研究協議会の代表による発表から指導の実際に触れ、協議を通して使いながら学ぶことの理解が進んだ。
- ③①外国語教育担当者のCan-Doリスト形式による学習到達目標の理解は進むものの、校内での共有が不十分のため、担当が変わると活用が変わる状況がある。
- ②コロナ禍で小中合同の研修会等の開催回数が減ってしまい、連携が滞ってしまった。

3. 施策・事業

- ①②②
 小中学校等英語指導力養成講座を実施
 ・学習指導要領の趣旨を踏まえた指導実践を学び、中学校での実践に触れ、自身の指導に活かせるようにする
 教育課程研究協議会を実施
 ・発表者より指導の実際を提供してもらい、求められている指導について理解を深める
 英語指導方法改善事業の実施
 ・学習者用デジタル教科書を活用した効果的な指導方法の開発・実践
 小学校英語専科教員研修会の実施
- ③①教育課程研究協議会の協議内容にCan-Doリスト形式の学習到達目標の設定・公表・達成状況の把握について扱う。
【小学校英語専科指導に係る加配定数を活用に係る事項】〈一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組〉
 下記の資格・実績がある者は10点の加点
 ・英語の中学校教諭又は高校教諭の普通免許状
 ・ALTの実務経験が2年以上
 ・CEFR B2相当取得者

令和5年度 埼玉県 英語教育改善プラン

目標

学習指導要領の円滑な実施に向けて、教員の英語指導力を養成
 学校段階に応じた目標達成に向け、*発信力強化のための指導力向上を図る
 (*発信力：英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うために、話したり、書いたりする力)

1. 現状

改善が進んだ点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が上昇 (R4 50.1% (R3 46.8%))

②Can-Doリスト形式の学習到達目標の達成状況の把握が進んだ (R4 96.1%)

未だ改善が必要な点

①CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合が伸び悩んでいるR4 36.0% (R3 36.1%)

②小中連携による、指導法の継続が進んでいない R4 67.6% (R3 77.5%)

2. 分析

①県内で民間英語検定試験への公的補助を実施している自治体が増えた。公的補助を導入している自治体は当該割合が高い傾向にある。

R1 29市町→R4 35市町

②教育課程研究協議会での行政説明がそれぞれの先生方に確実に伝わった。

①求められていることは承知しているが、実際の行動に移すことができていない。(アンケートより：忙しくて勉強する時間がない/実際の授業での英語運用力に困っていない/もうすぐ退職する等)

②コロナ禍で小中合同の研修会等の開催回数が減ってしまい、連携が滞ってしまった。

3. 施策・事業

①②①②

小中学校英語指導力養成講座の実施

- ・学習指導要領の趣旨を踏まえた指導実践を学ぶ。
- ・小学校での実践に触れ、小中連携の視点により、指導法の継続から指導力向上を図る。

教育課程研究協議会の実施

- ・発表者より指導の実際を提供してもらい、求められている指導について理解を深め、明日からの指導に活かせるようにする。

・R4 3月発行の「埼玉県中学校教育課程実践事例」を扱い、今求められている指導の実際を広く周知する。

- ・英語力の高い教員の授業の効果を周知する。

英語指導方法改善事業の実施

- ・学習者用デジタル教科書を活用した効果的な指導方法の開発・実践する。

・小中連携の視点により、発信力を高める系統的な指導力を研究し、その実践を県内に周知する。

①研修（先導的なオンライン研修実証事業）の効果測定として、参加者に英検IBAの受験を課す (R3 21名、R4 11名受験)。これにより自分の英語力の立ち位置を認識し、準備の見通しをもって民間英語資格試験への受験を促す。

令和5年度 埼玉県 英語教育改善プラン

目標

学習指導要領の円滑な実施に向けて、4技能のバランスが取れた
教員の英語指導力養成と生徒の英語力向上を図る

1. 現状

改善が進んだ点

①パフォーマンステスト実施
割合の増加 (R4: 22.7%
R3: 15.6%)

未だ改善が必要な点

① CEFR A2レベル相当以上
の英語力を有する生徒の
割合が低い (42.6%)

② 「生徒の英語による言語
活動 (40.0%)」「英語担
当教師の英語使用状況
(32.8%)」の割合が低い

③ CEFR B2レベル以上の
英語力を有する英語教員の
割合が低い(60.1%)

2. 分析

①教育課程連絡協議会にお
ける行政説明により、指導と
評価の一体化への理解が進
み、割合が向上した

①②
「担当教師の英語使用状況」
の割合が低いことから、生徒の
英語力向上に必要な「生徒
の英語による言語活動」の割
合が低い。

③
・資格取得者が減少している。
(R4:667人 R3:722人)
資格取得者が定年退職等で
離職した可能性もある。
・英語資格試験の受験の時
間が取れない

3. 施策・事業

①教育課程連絡協議会での指示伝達
(パフォーマンステストの実施に向けた行政説明
や事例の共有)

①②③
教員の英語力、指導力向上と生徒の英語力向
上は密接な関係があるため、以下の取組を行っ
ていく
・英語教育実施状況調査の埼玉県の現状共有
(校長会や協議会での伝達、結果のフィードバ
ック、学校訪問など)
・「授業研究支援訪問」などの活用による、各校
における授業改善支援
・2年次英語教員フォローアップ研修による、英語
による授業法・ディベート指導に関するワークショ
ップ実施と指導法の共有
・小中高合同の外部英語検定試験を活用した
教員研修の実施と特別受験制度の周知
・初任者のTOEIC受検